

(地独)青森県産業技術センター水産総合研究所
ほたて貝部、漁場環境部
青森県 東青地方水産事務所
下北地方水産事務所
水産振興課
青森市水産振興センター

ホタテガイ採苗速報

**稚貝採取は1分5厘のネットで西湾が6月末、東湾が7月初旬
2分のネットで西湾、東湾ともに7月上旬からできる見込み
余剰貝は融通し合いましょう**

1 ホタテガイの付着状況

6月15～20日に行った第2回全湾一斉付着稚貝調査結果は図1～3および表2、3のとおりです。ホタテガイ稚貝の平均付着数(袋替えなし)は西湾で3,638個/袋、東湾で2,912個/袋でした。平舘本所～蓬田村地区の平均値6,112個/袋と比較して青森～平内西部地区では1,165個/袋と昨年および前回と同様に後方で付着数が少ない状況です。

稚貝の平均殻長(袋替えなし)は、西湾で5.56mm、東湾で5.21mmとそれぞれの平年値2.31mm、1.60mmよりかなり大きくなっています。

2 キヌマトイガイ・ムラサキイガイ等の付着状況

キヌマトイガイとムラサキイガイの付着数(袋替えなし)は、全湾平均で2,231個/袋、9,072個/袋とそれぞれの平年値(過去10年の平均値)143,862個/袋、90,933個/袋よりかなり少なくなっています。

採苗器の外にウミセミが見られた地区がありましたが、ヒトデの付着は見られませんでした。なお川内、脇野沢で採苗器の中にトゲクリガニが見られました。

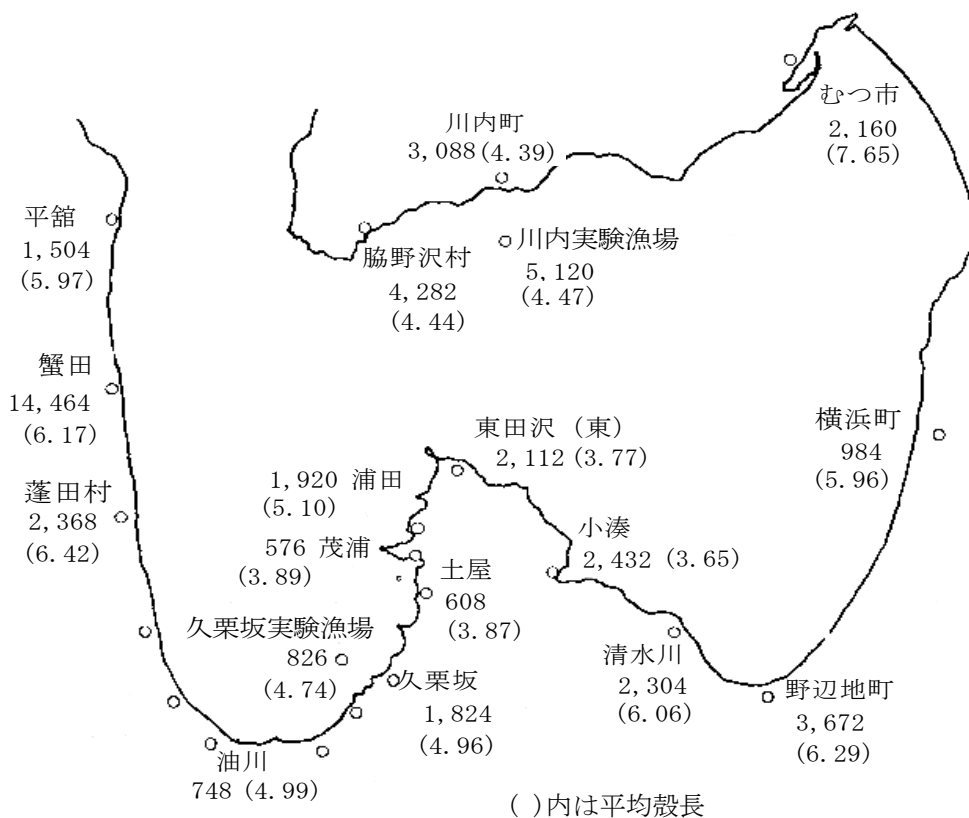


図1 調査地点毎の付着数〔単位：個/袋〕

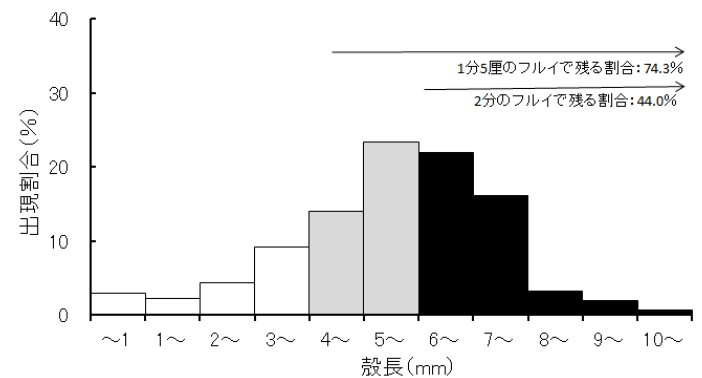


図2 ホタテガイ殻長組成 (西湾平均)

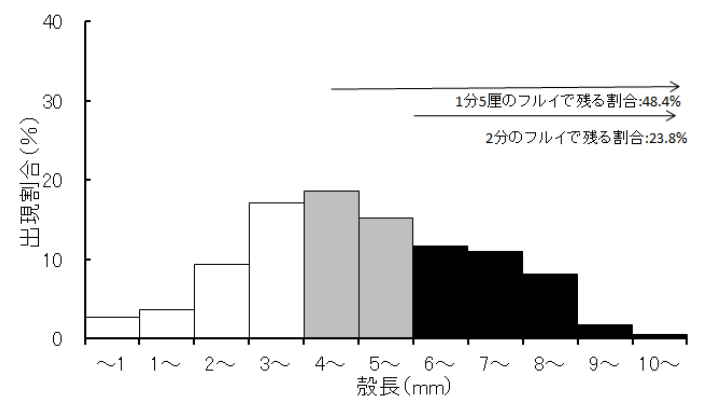


図3 ホタテガイ殻長組成 (東湾平均)

3 今後の見込み

1分5厘のネットに稚貝採取する場合、1分5厘のフルイに9割残るのは西湾で6月末から、東湾で7月初旬からの見込みです。2分の場合は西湾、東湾ともに7月上旬からの見込みです(表1)。ただし、付着数や今後の水温の動向によって成長に差が生じるので、稚貝の成育状況を見ながら作業を進めてください。

稚貝採取時の注意事項は裏面にあります。

表1 西湾と東湾の稚貝採取予測時期

目合	フルイに9割残る時期	
	西湾	東湾
1.5分	6月末	7月初旬
2分	7月上旬	7月上旬

4 お知らせ

令和5年度の付着稚貝調査は今回で終了いたしました。ご協力ありがとうございました。



5 稚貝採取時の注意事項

(1) 小さな稚貝も活用しましょう。

○目合いの異なるフルイを二重にして、ムラサキガイを落としましょう。

○目合いの細かいフルイに残る殻長の小さな稚貝を再度採苗器に入れ、垂下しま
しょう。

(2) 稚貝を大切に扱きましょう。

○作業は早朝の涼しい時間帯に行い、タライや水槽の水温が上がらないように、シート等で直射日光を防ぎましょう。

○高水温時にはタライや水槽の水は出来るだけ深い水深帯から汲み上げるようにしま
しょう。水温上昇や酸欠で稚貝が死んだり、成長不良になる危険性があるので、タ
ライや水槽の水はかけ流しにするか頻繁に交換しましょう。

○稚貝は、海水温が26℃を超えるとへい死の危険性が高くなります。海水温を計っ
たり、海況自動観測ブイならびに水温自動観測ブイの水温（表面URL、QRコー
ド）を参考にしながら26℃を超す日は稚貝採取をしないでください。

○稚貝は乾燥にも弱いので、手早く作業を行いましょう。

○稚貝採取が遅くなるほどムラサキガイが成長し、ホタテガイ稚貝とくっつきや
すくなり、作業効率が悪くなるので注意しましょう。

○採苗器内の稚貝は成長や水温上昇に伴い、袋の下に落ちて溜り、異常貝率やへい
死率が高くなるので、稚貝採取は早めに完了しましょう。

(3) 適正保有数、適正収容数を守りましょう。

○稚貝採取では決められた保有数を守りましょう。

○パールネット1段当たりの収容数を適正にしましょう。稚貝がへい死しない分散時
の中層水温は23℃以下です。分散が遅れると稚貝が成長し、過密状態になることか
ら異常貝が多くなります。分散が遅れる可能性があるパールネットには、稚貝を少
なめ（50～100枚/段）に入れましょう。

(4) 採取後の管理に気をつけましょう。

○採取後の稚貝が足糸でネットに付着しているかどうか見ながら作業を進めましょ
う。

○水深が浅いほど水温は高く、潮も速いので、採取後は施設を中層以深に沈めま
しょう。また、立ちきり（土俵）やオモリをつけて、施設やネットを安定させま
しょう。

○採取後も一部の採苗器を残し、余剰貝は融通し合いましょう。